

## 社会

# 心豊かに生活できる 仕組みの創造

## 社会課題の認識

「令和2年版情報通信白書」(総務省)によると、日本は課題先進国と称されるように、諸外国に先んじて人口減少、少子高齢化、都市部への人口集中などが進んでおり、近年さまざまな課題が顕在化してきています。

都市部では、日常的な渋滞や混雑による、移動時間・通勤時間の伸長などの社会的損失が発生しています。また地方では、鉄道やバスなどの公共交通サービスの減少・廃止による交通空白地帯が拡大し、自家用車による移動が困難な人々の、日常生活を送る上での移動の自由が限定されています。

このような、特性や課題が異なる地域住民などの移動ニーズに効率的に対応する手段として、「Mobility as a Service (MaaS)<sup>\*1</sup>」への期待が高まっており、日本全体で検討が進む中、自動車業界でも関連技術の開発や移動サービスの仕組みづくりへの取り組みが進められています。

## 課題解決に向けたマツダの考え方

### 社会課題解決に取り組む理由

2030年ごろには、世界的なデジタル化や効率化ツールの普及を受け、クルマも通信との連携による利便性の追究が進み、多様なサービスが続々と提供されて、便利さを追求するサービスの選択が重要な価値となっていると考えられます。

人口の集中に伴うインフラ整備が進む大都市部では、シェアリングサービスや公共交通機関並みのクルマの利用とサービスの提供が発達し、移動への不安や不便がますます解消されていると考えられます。

一方で、国内の中山間地域における、公共交通の空白化などによる高齢者やお身体の不自由な方を中心とした移動手段の不足の問題には、サービスの提供だけでは解決しない、地域活性化の課題も含まれています。

マツダは、クルマとコネクティビティ技術を活用することにより、地域住民が助け合うコミュニティ、そこに参加する地域内外のドライバーの方々、そこで生まれる人ととのつながりを創出していきたいと考えています。

### 社会課題解決に向けた考え方

マツダは、コネクティビティ技術をもつと人と人、人と社会がつながる姿へ進化させ、安全・安心で自由に移動することが可能な、心豊かな暮らしにつながる社会貢献モデルの構築を目指します。また、自動車メーカーの強みを生かした社会への貢献を積極的に行い、ブランド価値向上への取り組みを進めます。

## 日本版MaaSの推進にあたり設定された5つの地域類型

	(1) 大都市型	(2) 大都市近郊型	(3) 地方都市型	(4) 地方郊外・過疎地型	(5) 観光地型
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人口：大</li> <li>• 人口密度：高</li> <li>• 交通体系：鉄道主体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人口：大</li> <li>• 人口密度：高</li> <li>• 交通体系：鉄道／自動車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人口：中</li> <li>• 人口密度：中</li> <li>• 交通体系：鉄道／自動車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人口：低</li> <li>• 人口密度：低</li> <li>• 交通体系：自動車主体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人口：－</li> <li>• 人口密度：－</li> <li>• 交通体系：－</li> </ul>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 移動ニーズの多様化への対応</li> <li>• 潜在需要の掘り起こし</li> <li>• 日常的な渋滞や混雑</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファースト／ラストマイル交通手段の不足</li> <li>• イベントや天候などによる局所的な混雑</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自家用車への依存</li> <li>• 公共交通の利便性・事業採算性の低下</li> <li>• 運転免許返納後の高齢者、自家用車非保有者の移動手段不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自家用車への依存</li> <li>• 地域交通の衰退</li> <li>• 交通空白地帯の拡大</li> <li>• 運転免許返納後の高齢者、自家用車非保有者の移動手段不足の深刻化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地方部における二次交通の不足、観光交通の実現</li> <li>• 急増する訪日外国人の移動円滑化</li> <li>• 多様化する観光ニーズへのきめ細やかな対応</li> </ul>

〔都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会中間とりまとめ概要〕(国土交通省)をもとにマツダにて作成

\*1 Mobility as a Service (MaaS)：地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済などを一括で行うサービス。

## 自動車メーカーの強みを生かした社会への貢献

マツダは、これまで培った技術やスキルを活用し、社会課題の解決に貢献できるよう、さまざまな取り組みを進めています。マツダに関わる人々との対話と共に創を大切にしながら、社会の持続的な発展を目指します。

### コネクティビティ技術を活用した 乗り合いサービスの実証実験

マツダは、クルマとコネクティビティ技術を活用して、地域住民が助け合うコミュニティ、そこに参加する地域内外のドライバーたち、そこで生まれる人と人を通じたリアルな発見、体験、成長を創出していく。そこには人間らしさがあふれ、「生きる歓び」を実感できる世界があると考えるからです。

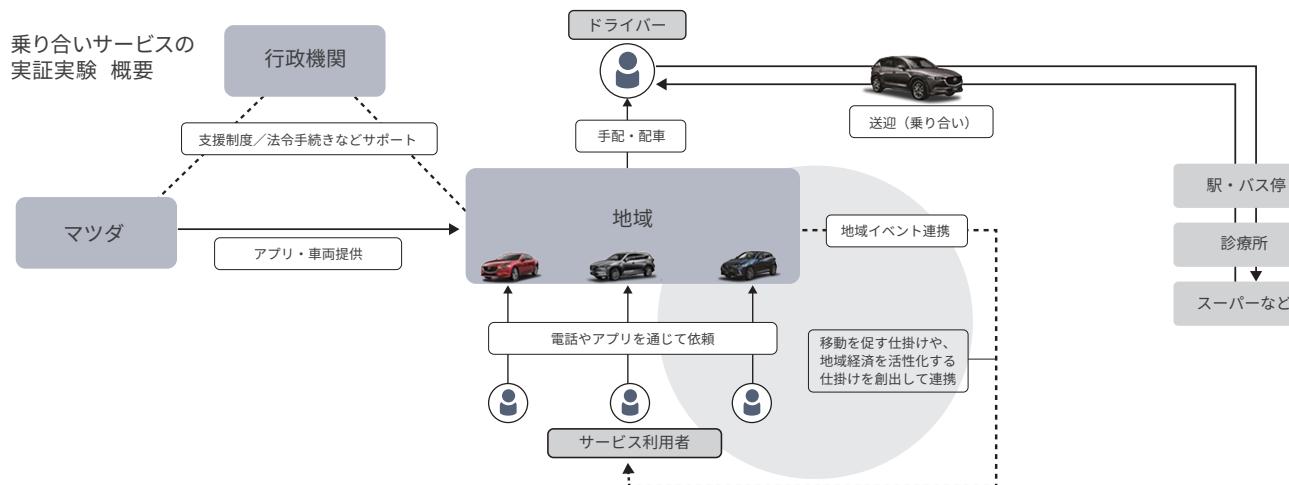
昨今、国内の中山間地域において、公共交通の空白化などにより移動手段の不足が社会問題になっています。このような社会問題に対応するため、マツダは、2018年12月より、広島県三次市において地域住民の皆さま、行政機関である広島県および三次市

と連携して、コネクティビティ技術を活用した支えあい交通サービス実証実験を開始しました。マツダは運行管理システムおよび利用者用アプリの開発を担当しています。実証地域の三次市川西地区と作木町の方々に継続利用していただきながら地域との対話を通じて利便性向上と効果検証を行っています。

現在、地域交流イベントや、農産物の出荷・集荷などの地域情報と支えあい交通サービスの連携により地域内外の人や物の移動をシームレスにつなぐといったさまざまな施策を通じて、より多くの人々に使っていただき、地域活性化につながる持続可能なサービスの実現に向けて取り組んでいます。

また、2021年12月より東広島市へ活動の場を広げ、支えあい交通サービスによる移動問題の解決に加え、マツダが持つ再生可能エネルギーEVをはじめとしたモビリティ技術を生かした、サステナブルな暮らし方やサーキュラー・エコノミーによる豊かな社会の実現を目指し、地域の方々と共に検討を進めています。マツダは、この取り組みを通して、地域の活性化と、いつまでも安全・安心で自由に移動することが可能な、心豊かな暮らしにつながる社会貢献モデルの構築を目指します。

乗り合いサービスの  
実証実験 概要



支えあい交通サービス実証実験の様子

出典：川西自治連合会

### 予期せぬ災害による避難の際の車中泊のサポート

予期せぬ災害が頻発する昨今、自動車メーカーとしての知識を生かし、避難した場所で車中泊する際に活用できる商品をセットにしたマツダ純正用品緊急防災「車中泊セット」を発売しました。「エコノミークラス症候群」になるリスクを軽減するための着圧ソックスなど車中泊を過ごしやすくする商品や、携帯トイレ、給水バッグなどに加え、バッテリー上がりの際に役立つケーブルなども備えたセットとなっています。令和2年7月豪雨災害時には、支援活動・復旧活動に役立てていただくために、この車中泊セットを被災地へ送付しました。また、2022年7月にはより多くの方々にご利用いただくことを視野に入れ、お求めやすい安価タイプ「車中泊セット(5L)」を追加しました。



緊急防災「車中泊セット」

## 各国・地域のニーズに即した社会への貢献

良き企業市民としての責任を果たすため、それぞれの国・地域のニーズに即した社会貢献取り組みを継続的に行っていきます。

### 取り組み基本方針

#### 基本理念

グローバルにビジネスを展開しているマツダは、企業活動を通じて、持続可能な社会の実現に寄与するために、それぞれの地域のニーズに即した取り組みを継続的に行い、良き企業市民としての責任を果たしていきます。

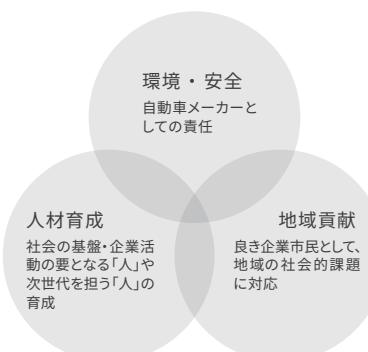
#### 活動方針

- 国内・海外のマツダグループの本業を通して社会的課題に積極的・継続的に取り組む。
- 地域と協働し、それぞれの地域ニーズに即した活動を行い持続可能な社会の発展に貢献する。
- 従業員の自発的ボランティア活動を重視・支援する。多様な価値観を取り入れることで、柔軟性のあるいきいきとした企業風土の醸成を目指す。
- 活動内容を積極的に開示し、社会との対話を努める。

#### 3つの柱

「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、地域に根ざした活動を推進していきます(☞ P79-80)。

#### 社会貢献 取り組み基本方針3つの柱



### 推進体制

2010年5月に「社会貢献委員会」を設置し、定期的に(年2回)開催する委員会では、CSR経営戦略委員会(☞ P9)で決定した社会貢献に関する方針などに基づき、マツダグループ全体の課題を討議し情報を共有しています。

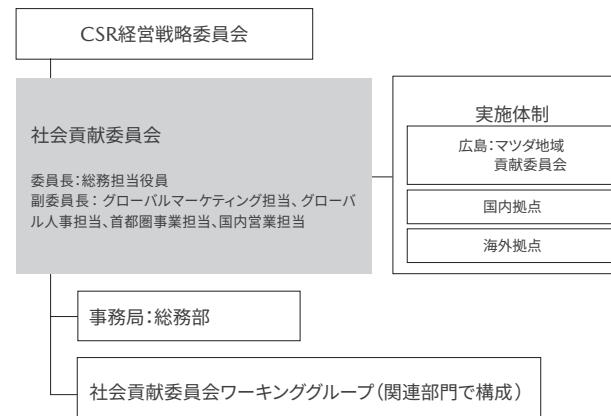
関連部門で構成するワーキンググループでは、具体的な活動内容を検討します。

2010年からの委員会活動を通じて、グローバルおよびグループ視点での情報収集・活用を継続的に強化しています。個々の活動の実施にあたっては、各拠点・各部門がそれぞれ予算化し対応しています\*1。

### 2022年度の主な実績

- 国内・海外で、700件\*2以上の活動を実施しました\*3(社会貢献活動費:約20.6億円)。(☞ P121)
- 社会貢献プログラム影響評価指標に基づいたマツダ社会貢献活動優秀賞を設立し、PDCAサイクルを継続しています。

### 推進体制図



### 社会貢献プログラム影響評価指標

社会の課題を解決するとともに、企業価値の向上に貢献するプログラムを評価・促進するため、2014年度より社会貢献プログラム影響評価指標を設定し、PDCAプロセスを構築しました。

指標は「社会への影響」「会社への影響」「マツダらしさ」の3つの視点で設定し、評価しています(具体的には、「受益者の数」「従業員の参加数」「社会貢献3つの柱との整合」などの8項目構成)。

### マツダ社会貢献活動優秀賞

優れた社会貢献活動に対する表彰制度「マツダ社会貢献活動優秀賞」を2015年1月に創設しました。この制度は、マツダグループで取り組んでいる活動をより多くの方に知っていただくとともに、社内外に喜ばれる活動がさらに増えていくことを目的としています。表彰対象は、社会貢献プログラム影響評価指標をふまえ、社会貢献委員会ワーキンググループメンバー、マツダ労働組合、およびマツダ労働組合連合会が連携して評価し、社会貢献委員会で選定します。受賞した活動に対しては、毎年1月、会社創立記念日にあわせて社長名の表彰状が贈られます。

#### ■ 第9回マツダ社会貢献活動優秀賞

2022年度の表彰対象は、マツダ社会貢献活動レポート\*3掲載の社会貢献活動(活動時期:2021年4月~2022年3月)の中から選ばれました。

#### 第9回マツダ社会貢献活動優秀賞

	活動名
大賞	トイドライブ (マツダデメヒコビークルオペレーションズ)
特別賞	ウクライナへの支援 (マツダモーターヨーロッパN.V.)
特別賞	子どもたちへの学習支援(マツダ(株))
奨励賞	折り鶴プロジェクト (マツダモータースオブニュージーランドLtd.)

\*1 日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカでは、別途マツダ財団を通じての活動を実施。

\*2 社会貢献活動該当範囲:マツダ単体と主要子会社の連結ベース。金銭寄付、現物寄付、施設開放、社員の参加・派遣、自主プログラム、自然災害被災地支援。

\*3 マツダ株式会社企業サイト「社会貢献への取り組み」

<https://www.mazda.com/ja/sustainability/social/>

安全・安心なクルマ社会の実現 | 心豊かに生活できる仕組みの創造

## 従業員のボランティア活動支援

従業員がボランティア活動に積極的に取り組めるよう、支援を行っています。

- 活動する機会の提供(マツダスペシャリストバンク、マツダボランティアセンターなど)
- 活動する費用の一部補助(マツダ・フレックススペネフィット<sup>※1</sup>など)
- 活動に伴う休暇の支援(ハートフル休暇制度( P118)に含まれるボランティア休暇など)
- ボランティア研修受講機会の提供

## 自然災害被災地支援

マツダグループでは被災地の復興を願ってさまざまな支援を行っています。地震や異常気象などが生じた際、マツダ本社と現地拠点が連携をとり、適切な支援を行っています。

支援事例：東日本大震災／平成29年九州北部豪雨／平成30年7月豪雨(西日本豪雨)／平成30年台風21号／平成30年北海道胆振東部地震／令和元年台風19号／令和2年7月豪雨災害(日本)、米国ハリケーン(米国)、メキシコ地震(メキシコ)、タイ南部洪水(タイ)、トルコ・シリア地震(トルコ・シリア)など。

## 財団を通じた社会貢献

マツダおよびグループ会社は5カ国で財団を設立し、それぞれの地域に適した支援活動を促進しています。

国	財団名	支援内容／目的	設立年	2022年度助成(寄付)金額
日本	<a href="#">マツダ財団</a>	科学技術の振興と青少年の健全育成	1984年	5,112万円
米国	<a href="#">マツダ財団 USA</a>	教育・環境保護・社会福祉・異文化交流の助成	1990年	49.8万米ドル
オーストラリア	<a href="#">マツダ財団 オーストラリア</a>	教育・環境保護・科学技術振興の助成、社会福祉関連取り組みへの貢献	1990年	125.4万豪ドル
ニュージーランド	<a href="#">マツダ財団 ニュージーランド</a>	教育・環境保護・文化活動の助成	2005年	22.2万NZドル
南アフリカ	マツダ財団 南アフリカ	教育、キャリア開発、技術開発、環境保全などへの貢献	2017年	104.5万ランド

### TOPICS

## トルコ・シリア地震に対する支援

マツダは、トルコ・シリア地震の被災地域ならびに被災者への支援活動に役立てていただくため、日本赤十字社を通じて、1,000万円を寄付しました。また、トルコ・シリア周辺国の販売会社などでは、被災地での人道支援活動を支えるため慈善団体などへ寄付を行いました。

[トルコ・シリア地震に対する支援](#)

※1 選択型の福利厚生制度。あらかじめ定められたポイントの範囲内で社員個人が選んだ福利厚生メニューの補助が受けられる仕組み。

## 3つの柱に基づいた取り組み

「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、マツダが事業活動を行っているそれぞれの地域に根ざした活動を推進しています。

### 環境・安全

マツダのビジネスは地球温暖化やエネルギー・資源不足、交通事故などの社会的課題に関係／影響があります。これらの課題に対応するため、本業のみならず社会貢献活動においても「環境」「安全」の視点を大切にしています。

- 各種イベントでの環境啓発、環境教育のための講師派遣、生物多様性保全を含む各種環境保全ボランティア活動など
- イベントにおける交通安全に関する講演、安全運転講習の実施など

### [環境]

#### 日本／地域清掃活動

マツダ、グループ会社、全国の販売会社では、定期的に会社周辺の清掃や雑草除去など、美化活動に取り組んでいます。2022年度、マツダでは、グループ会社・地元行政と連携し、地域貢献活動の一環として、清掃ボランティアに取り組みました。



#### ニュージーランド／実践的な学習の開発支援

マツダモータースオブニュージーランドLtd.は、2004年からニュージーランドの代表的な保護団体「プロジェクト・クリムゾン・トラスト」の活動支援を行っています。また、2022年からは、当初、同団体と共に実施していた「ツリーメンダス」プロジェクトを独自に運営しており、自然の中で実践的に学び、環境に配慮し、守っていく術を子どもたちに教えています。



### [安全]

#### 日本／旗振り活動

マツダを母体とした社会人ラグビーチーム「マツダスカイアクティズ広島」は2022年7月、「広島県夏の交通安全運動週間」において、広島市、広島県警察、交通ボランティアの皆さんと連携し、交通事故を未然に防ぐための啓発活動を行いました。国内の販売会社では、店舗周辺の交通安全立哨活動を行っています。リフレクターの配布や、旗を設置するなど近隣住民に対し、交通安全意識の高揚を図り交通事故の減少を目指しています。



#### 日本／カーブミラー清掃

国内の販売会社では、交通安全週間などに合わせ、交通安全に寄与する活動として、カーブミラーの清掃・点検を定期的に実施しています。地元の警察署などと連携し活動を行っており、カーブミラー視認性の確保、破損などの状況を管轄警察署に届け出ることで、通行車両の交通事故防止を目指しています。



## 人材育成

人は社会や企業活動の要であり、次世代を担うとの考えの下、社会貢献活動においても「人材育成」の視点を大切にしています。

- ものづくりなどの専門知識や技能を生かした講義・講演
- インターンシップの実施、敷地内の施設を活用した自動車に関する学習支援など

## 地域貢献

ビジネスを展開している国・地域において、各地域社会が抱える固有の課題に対応するため「地域貢献」の活動を推進しています。

- 慈善団体への寄付や車両の寄贈、慈善活動への参加
- スポーツ・文化の振興など

### [人材育成]

#### 日本／子どもたちの学習支援

マツダグループでは、小学生から大学生を対象に職場見学や職業講話などを行っています。マツダでは、コロナ禍で社会科見学を実施できなかった近隣の小中学校を対象に工場見学を行いました。その他、(公社)自動車技術会主催の小学生対象「キッズエンジニア」に毎年参加しています。2022年度はプログラム「自分だけの『マフラー』をつくって音のひみつを探ってみよう!」を地域の公民館と横浜の会場で実施しました。



#### 南アフリカ／子どもたちの教育、健康的な暮らしへの支援

マツダ財団南アフリカでは2020年度より、教育や成育環境の問題などに直面する子どもたちが、健康的な生活や暮らしを享受できるようさまざまな取り組みを行うNGO「バタフライ・ハウス」の活動を支援しています。バタフライ・ハウスでは、子どもたちが安全に遊べる場所の充実に注力し、遊び場の拡張を図っています。2022年度は、日差しや暑さから子どもたちを守り、運動場で楽しく過ごせるよう、日除けネットを寄贈しました。



### [地域貢献]

#### 日本／フードドライブ

マツダ、グループ会社、国内の販売会社では、「食品ロスの削減」「地域共生」を目的に、多くの従業員の協力を得ながら活動を行っています。マツダでは、広島本社の構内と独身寮に収集箱を設置し、回収した食品を仕分けた後、フードバンク事業を行っている各種団体へ寄贈しました。



#### グローバル／折り鶴プロジェクト

世界各国の販売統括会社から千羽鶴を集め、広島市にある平和記念公園に奉納しています。この活動は、コロナ禍で千羽鶴の寄贈数が激減したことから広島市まちづくり市民交流プラザより協力依頼があり始まりました。現在では世界中のマツダ従業員・販売統括会社・お客さまと、平和を祈念したり、グローバルでのつながりを体感する活動となっています。2022年度は10カ国が参加し、合計約24,000羽の折り鶴が集まりました。集まった折り鶴は社会福祉施設で千羽鶴へ仕立てていただき、広島市に奉納しました。

